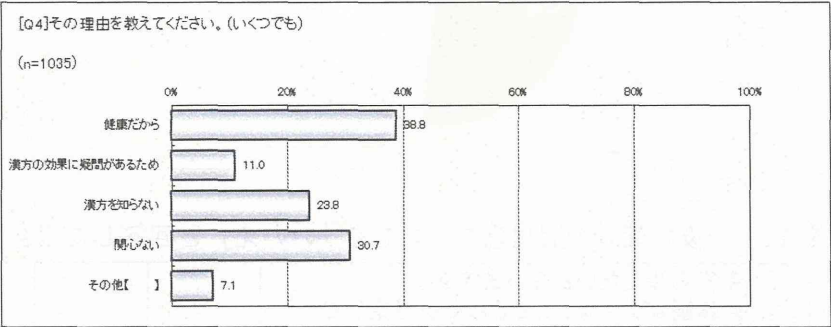


次に漢方薬の服用経験について、「いいえ」と回答した場合に、服用したことがない理由について割合みると、「健康だから」が38.8%ともっとも大きく、次いで、「関心がない」が30.7%、「漢方を知らない」が23.8%であった。

また、今後の利用意向については、「わからない」が51.4%、次いで「はい」が36.3%、「いいえ」が12.3%であった。

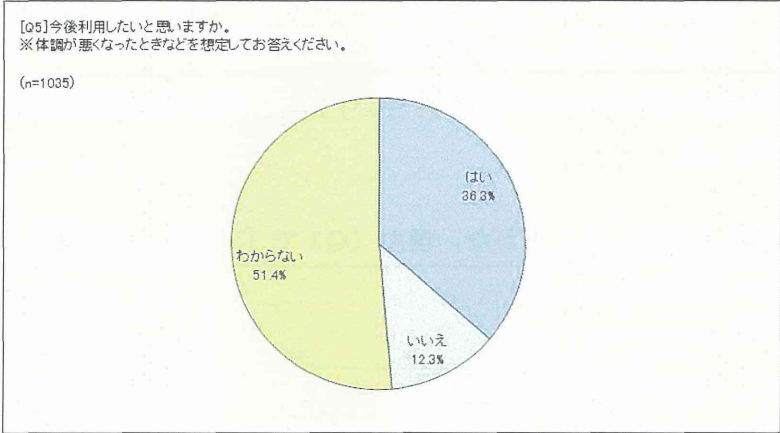
図表 8 漢方を服用したことがない理由（Q1で「いいえ」と回答した場合）



図表 9 漢方を服用したことがない理由（Q1で「いいえ」と回答した場合）

Q4	その理由を教えてください。(いくつでも) 複数回答	その理由を教えてください。(いくつでも) 複数回答	
		N	%
1	健康だから	402	38.8
2	漢方の効果に疑問があるため	114	11.0
3	漢方を知らない	246	23.8
4	関心がない	318	30.7
5	その他【 】	74	7.1
	全体	1035	100.0

図表 10 今後の漢方の服用意向（Q1で「いいえ」と回答した場合）



図表 11 今後の漢方の服用意向（Q1で「いいえ」と回答した場合）

Q5	今後利用したいと思いますか。 ※体調が悪くなったときなどを想定して お答えください。 単一回答		
		N	%
1	はい	376	36.3
2	いいえ	127	12.3
3	わからない	532	51.4
	全体	1035	100.0

2) 生薬について

漢方の原料である生薬の 80%以上が輸入であること知っているかについて、「はい」と回答した割合が 22.3%で、「いいえ」と回答した割合が 77.7%であった。

また、輸入生薬と比べて国産生薬の特徴についてみると、価格が高いと「思う」が 38.1%と最も多く、次いで「どちらかというと思う」が 36%と、「思う」、「どちらかというと思う」を合わせると 7 割程度であった。

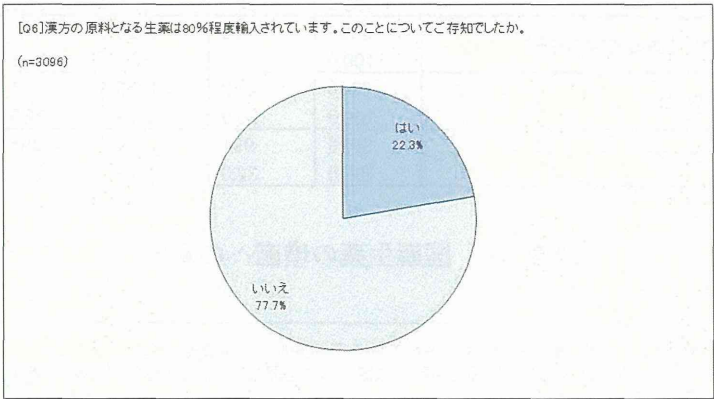
安全性が高いについても、「思う」が 37.3%、「どちらかというと思う」が 33.3%と、「思う」「どちらかというと思う」を合わせると 7 割であった。

品質のばらつきが少ないについては、「どちらかというと思う」が 34.2%、次いで「どちらともいえない」が 32.7%、「思う」が 26.9%となっている。「思う」、「どちらかというと思う」を合わせると 6 割程度であった。

製品（栽培）量が少ないについては、「どちらかというと思う」が 36.2%と最も多く、次いで「思う」が 32%となっている。「思う」、「どちらかというと思う」を合わせると 7 割程度であった。

国産生薬の割合を増やすべきかについては、「思う」が 45.4%と最も多く、次いで「どちらかというと思う」が 30.1%となっており、「思う」「どちらかというと思う」を合わせると 8 割程度であった。

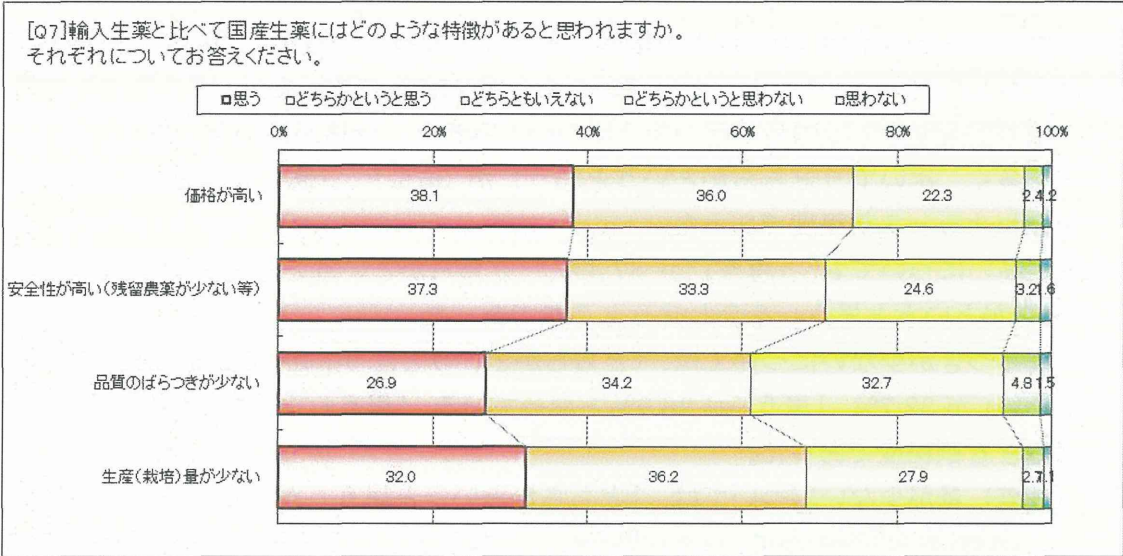
図表 12 漢方の原料（生薬）の輸入状況の理解



図表 13 漢方の原料（生薬）の輸入状況の理解

Q6	漢方の原料となる生薬は80%程度輸入されています。このことについてご存知でしたか。 単一回答		
		N	%
1	はい	691	22.3
2	いいえ	2405	77.7
	全体	3096	100.0

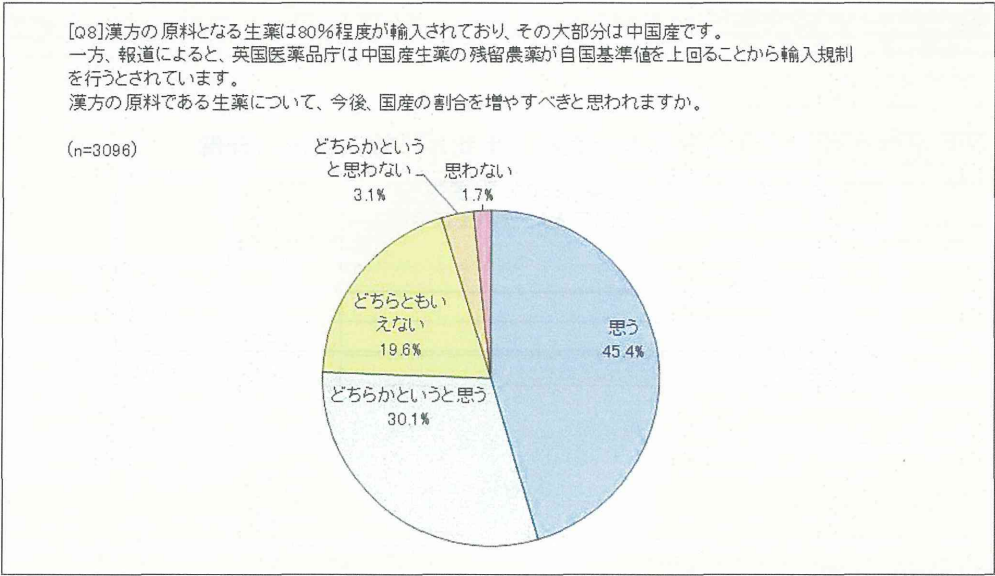
図表 14 国産生薬の特徴



図表 15 国産生薬の特徴

Q7	輸入生薬と比べて国産生薬にはどのような特徴があると思われますか。 単一回答	全体	1	2	3	4	5
			思う	どちらか というと思 う	どちらとも いえない	どちらか というと思 わない	思わない
1	価格が高い	3096 100.0	1179 38.1	1116 36.0	690 22.3	74 2.4	37 1.2
2	安全性が高い(残留農薬が少ない等)	3096 100.0	1156 37.3	1030 33.3	762 24.6	99 3.2	49 1.6
3	品質のばらつきが少ない	3096 100.0	832 26.9	1058 34.2	1011 32.7	149 4.8	46 1.5
4	生産(栽培)量が少ない	3096 100.0	991 32.0	1121 36.2	865 27.9	84 2.7	35 1.1

図表 16 国産生薬の増産への意向



図表 17 国産生薬の増産への意向

Q8	漢方の原料となる生薬は80%程度が輸入されており、その大部分は中国産です。 一方、報道によると、英国医薬品庁は中国産生薬の残留農薬が自国基準値を上回ることから輸入規制を行うとされています。 漢方の原料である生薬について、今後、国産の割合を増やすべきと思われますか。		
	単一回答	N	%
1	思う	1407	45.4
2	どちらかと思う	931	30.1
3	どちらともいえない	607	19.6
4	どちらかと思うわない	97	3.1
5	思わない	54	1.7
	全体	3096	100.0

3) 漢方の普及について

漢方のより一層の普及に向けての取り組みについて、個別にその有効性について問うたところ、次の通りの回答を得た。

国内農業における生薬栽培基盤を整備すること（生薬栽培に必要な種苗の安定供給等）は、必要だと「思う」が 42.6%と最も大きく、次いで「どちらかというと思う」が 40.3%であった。

IT を用いた先進的栽培技術を導入することについては、「どちらかというと思う」が 41.1%と最も大きく、次いで「どちらともいえない」が 27.9%であった。

漢方が食品・化粧品分野へ拡大することについては、「どちらともいえない」が 35.7%と最も大きく、次いで「どちらかというと思う」が 34.7%であった。

医師や薬剤師が積極的に漢方を薦めることについては、「どちらかというと思う」が 37.3%と最も大きく、次いで「どちらともいえない」が 32%であった。

IT 等による漢方診断（支援）の普及を通じ、より容易に漢方の判定が得られることについては、「どちらともいえない」が 38.3%と最も大きく、次いで「どちらかというと思う」が 37.8%であった。

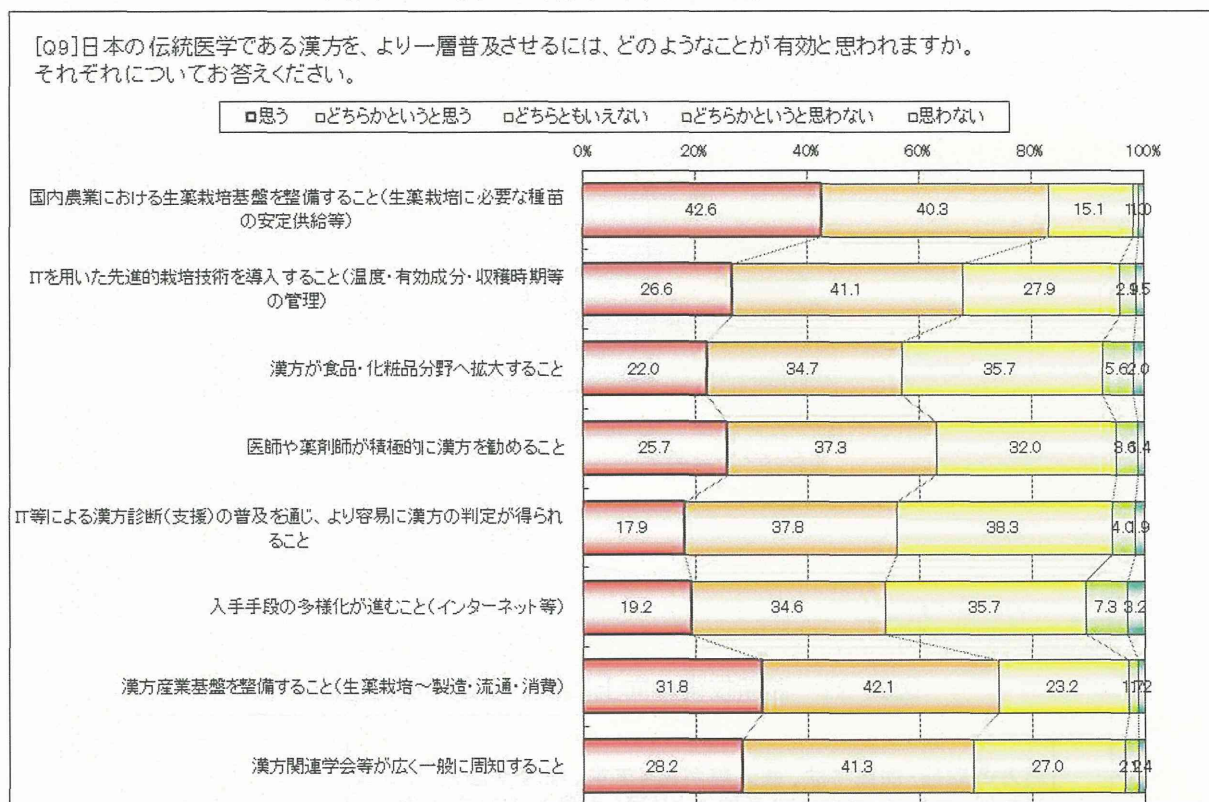
入手手段の多様化が進むこと（インターネット等）については、「どちらともいえない」が 35.7%と最も大きく、「どちらかというと思う」が 34.6%であった。

漢方産業基盤を整備（生薬栽培～製造・流通・消費）すること（生薬栽培～製造・流通・消費）については、「どちらかというと思う」が 41.3%と最も大きく、次いで「思う」が 31.8%であった。

漢方関連学会等が広く一般に周知することについては、「どちらかというと思う」が 42.1%と最も大きく、次いで「思う」が 28.2%であった。

検査や診断技術の向上によってより自分に適した漢方の判定が可能になった場合の服用の意思については、服用したいと「どちらかというと思う」が 49%と最も大きく、次いで「思う」が 26%であった。「思う」「どちらかというと思う」を合わせると 8割程度であった。

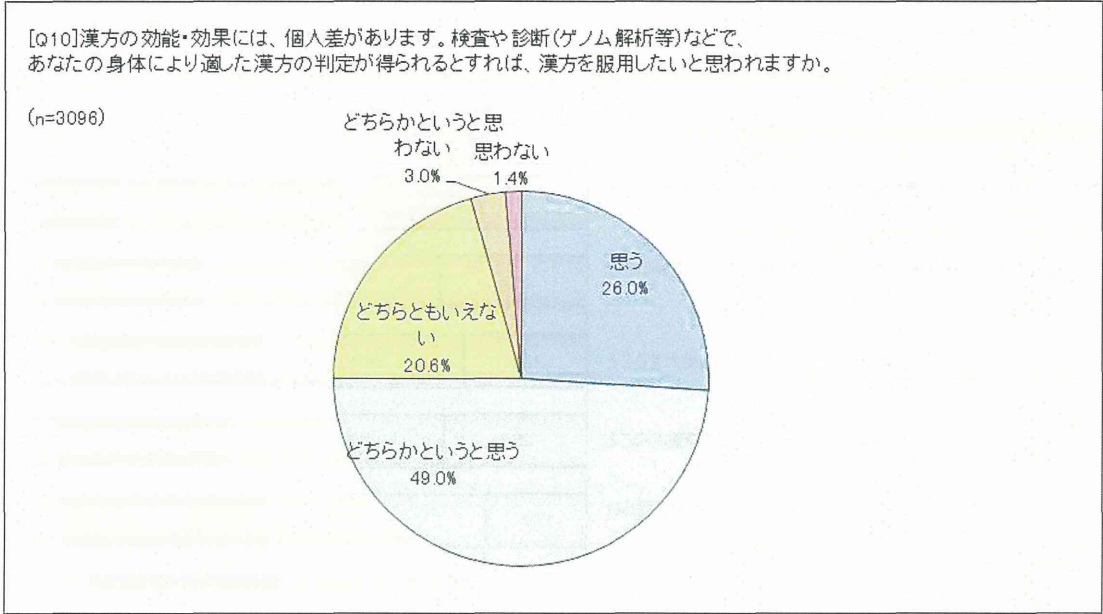
図表 18 漢方の普及に向けての対応について



図表 19 漢方の普及に向けての対応について

Q9	日本の伝統医学である漢方を、より一層普及させるには、どのようなことが有効と思われますか。それぞれについてお答えください。 単一回答	全体	1	2	3	4	5
			思う	どちらかというと思う	どちらともいえない	どちらかというと思わない	思わない
1	国内農業における生薬栽培基盤を整備すること(生薬栽培に必要な種苗の安定供給等)	3096 100.0	1320 42.6	1249 40.3	466 15.1	30 1.0	31 1.0
2	ITを用いた先進的栽培技術を導入すること(温度・有効成分・収穫時期等の管理)	3096 100.0	823 26.6	1272 41.1	864 27.9	91 2.9	46 1.5
3	漢方が食品・化粧品分野へ拡大すること	3096 100.0	682 22.0	1075 34.7	1105 35.7	173 5.6	61 2.0
4	医師や薬剤師が積極的に漢方を勧めること	3096 100.0	795 25.7	1154 37.3	992 32.0	111 3.6	44 1.4
5	IT等による漢方診断(支援)の普及を通じ、より容易に漢方の判定が得られること	3096 100.0	555 17.9	1171 37.8	1186 38.3	125 4.0	59 1.9
6	入手手段の多様化が進むこと(インターネット等)	3096 100.0	595 19.2	1072 34.6	1104 35.7	226 7.3	99 3.2
7	漢方産業基盤を整備すること(生薬栽培～製造・流通・消費)	3096 100.0	984 31.8	1304 42.1	719 23.2	53 1.7	36 1.2
8	漢方関連学会等が広く一般に周知すること	3096 100.0	872 28.2	1278 41.3	836 27.0	68 2.2	42 1.4

図表 20 診断技術の向上による漢方の服用意向



図表 21 診断技術の向上による漢方の服用意向

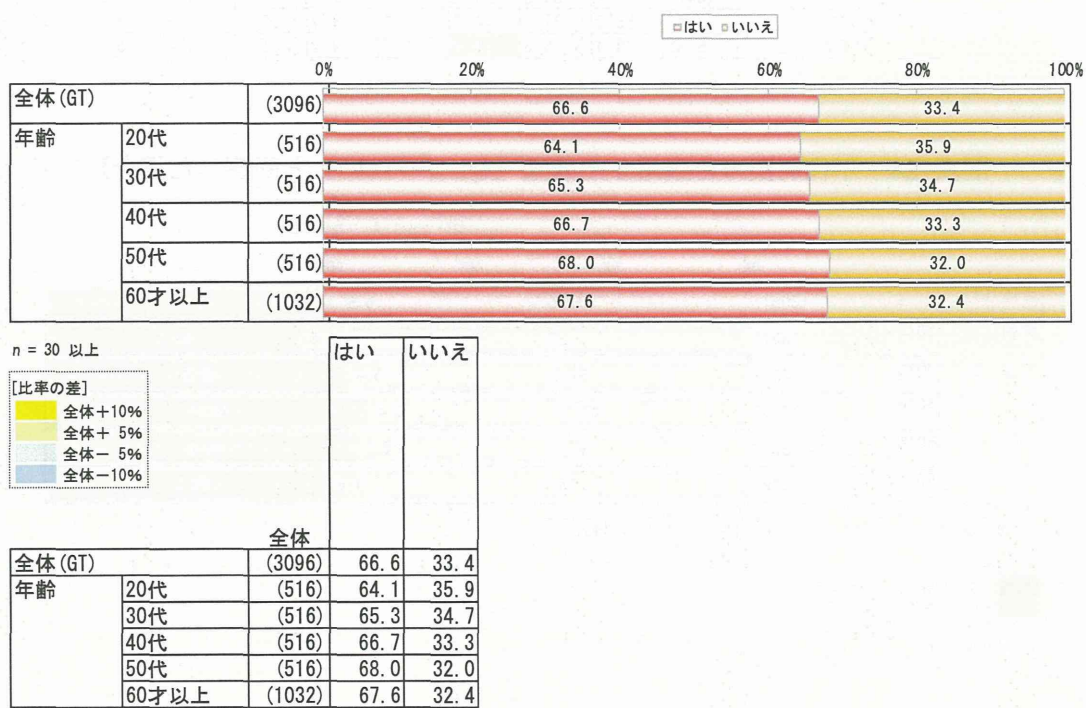
Q10	漢方の効能・効果には、個人差があります。検査や診断(ゲノム解析等)などで、あなたの身体により適した漢方の判定が得られるとすれば、漢方を服用したいと思われますか。		
		単一回答	
		N	%
1	思う	805	26.0
2	どちらかと思う	1518	49.0
3	どちらともいえない	637	20.6
4	どちらかと思わない	94	3.0
5	思わない	42	1.4
	全体	3096	100.0

(3) 年代別クロス集計

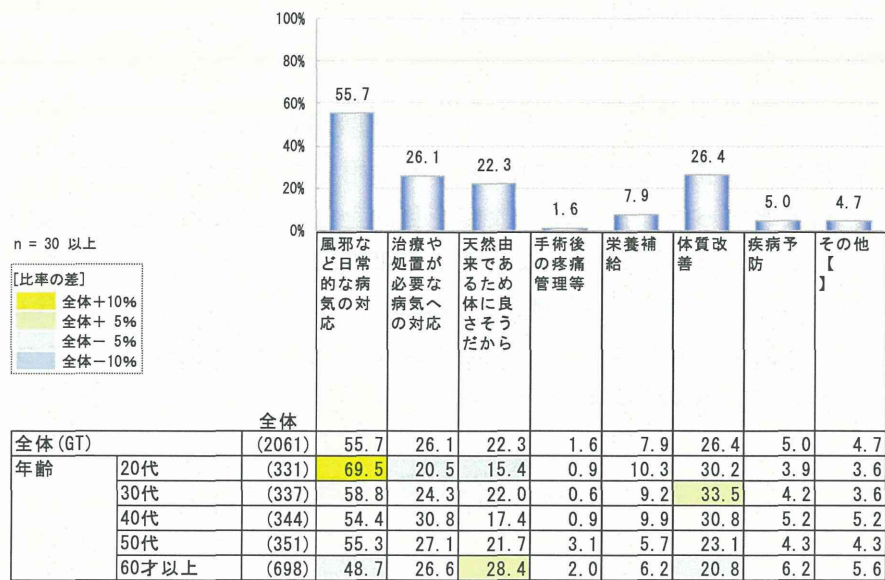
1) 漢方薬の服用経験とその理由

年代別の服用経験をみると、年代に問わず服用経験が6割以上であった。また、服用の理由としては、風邪など日常的な病気の対応として服用している割合が大きく、特に20代が7割程度と最も大きかった。また体質改善を目的とした服用は、20代、30代、40代は3割程度であるのに対し、50代、60才以上は2割程度であった。服用したことがない理由としては、20代は「関心がない」という理由が4割と最も大きく、他の年代については「健康だから」という理由が4割程度と最も大きかった。今後の服用意向については、30代が「はい」と回答している割合最も大きかった。

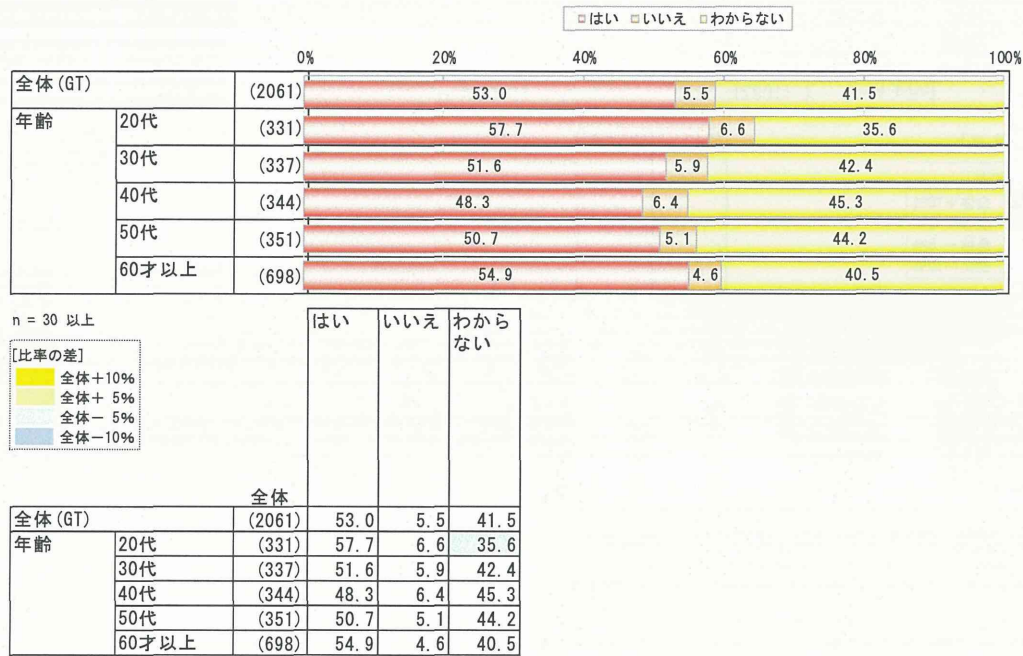
図表 22 年代別漢方の服用経験



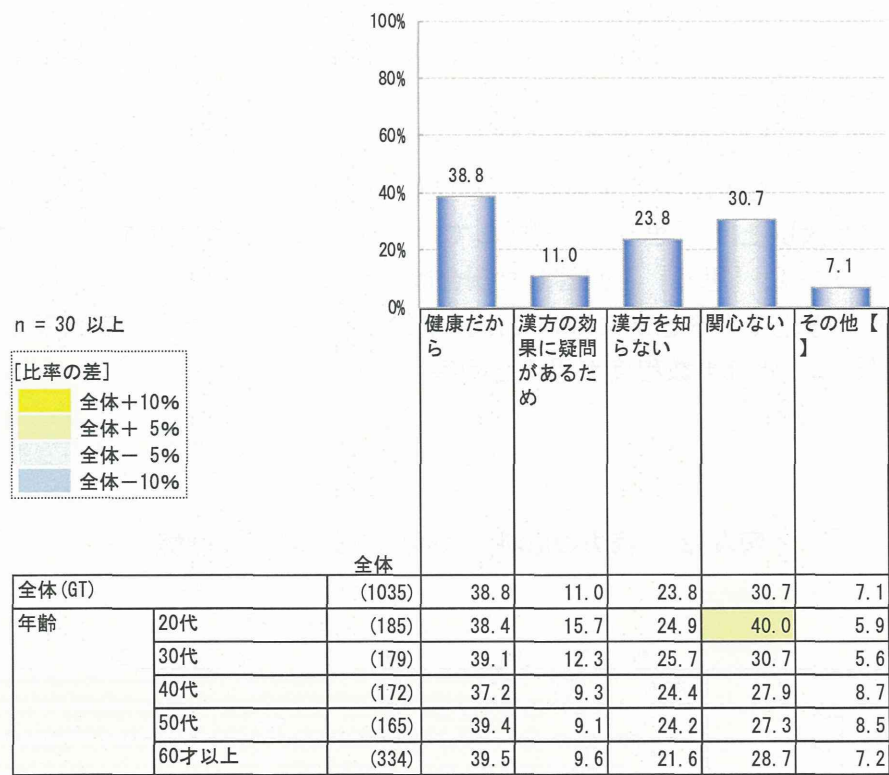
図表 23 年代別服用した理由 (Q1で「はい」と回答した場合)



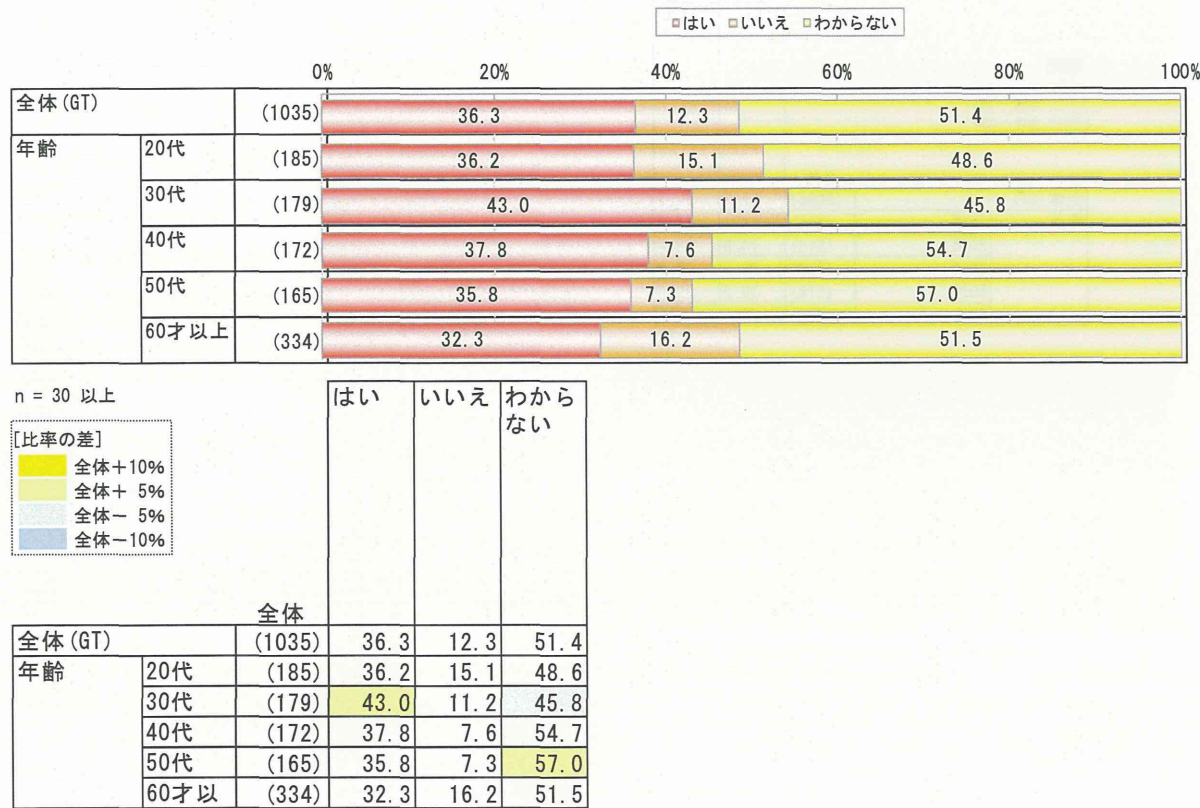
図表 24 年代別漢方を服用した効果 (Q1で「はい」と回答した場合)



図表 25 漢方を服用したことがない理由（Q1で「いいえ」と回答した場合）



図表 26 今後の漢方の服用意向（Q1で「いいえ」と回答した場合）



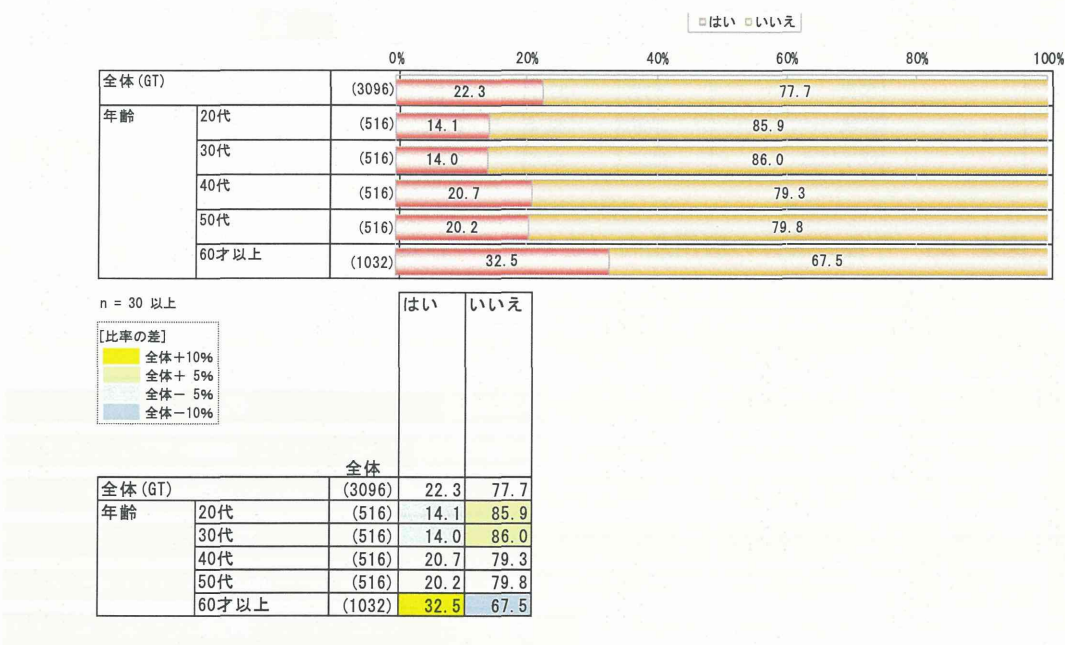
2) 生薬について

年代別での生薬原料の 80%が輸入であることを知っているかについては、「はい」と回答した割合は、60 代が 32.5%ともっとも大きく、次いで、40 代、50 代は 20%程度、20 代、30 代は、14%程度であった。

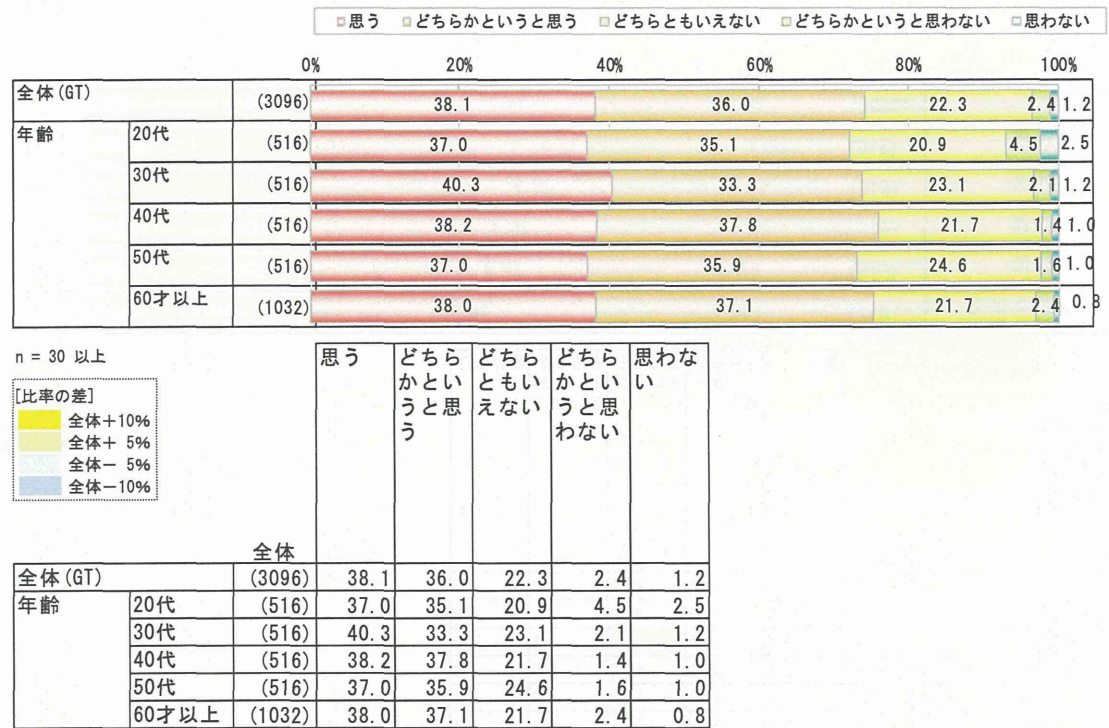
次に、輸入生薬と比べた国産生薬の特徴についてみると、価格が高いと思っている割合は、いずれの年代においても差はなく 4 割程度が「思う」であった。また、品質のばらつきが少ないについて、60 代以上は、「思う」と回答している割合が 30%程度であった。生産（栽培）量が少ないについては、「思う」と回答した割合は、60 代が 36.8%ともっとも大きかった。

国産生薬の割合を増やすべきかについては、年代が高いほど「思う」と回答している割合が大きく、50 代、60 代は半数程度が思うと回答した。

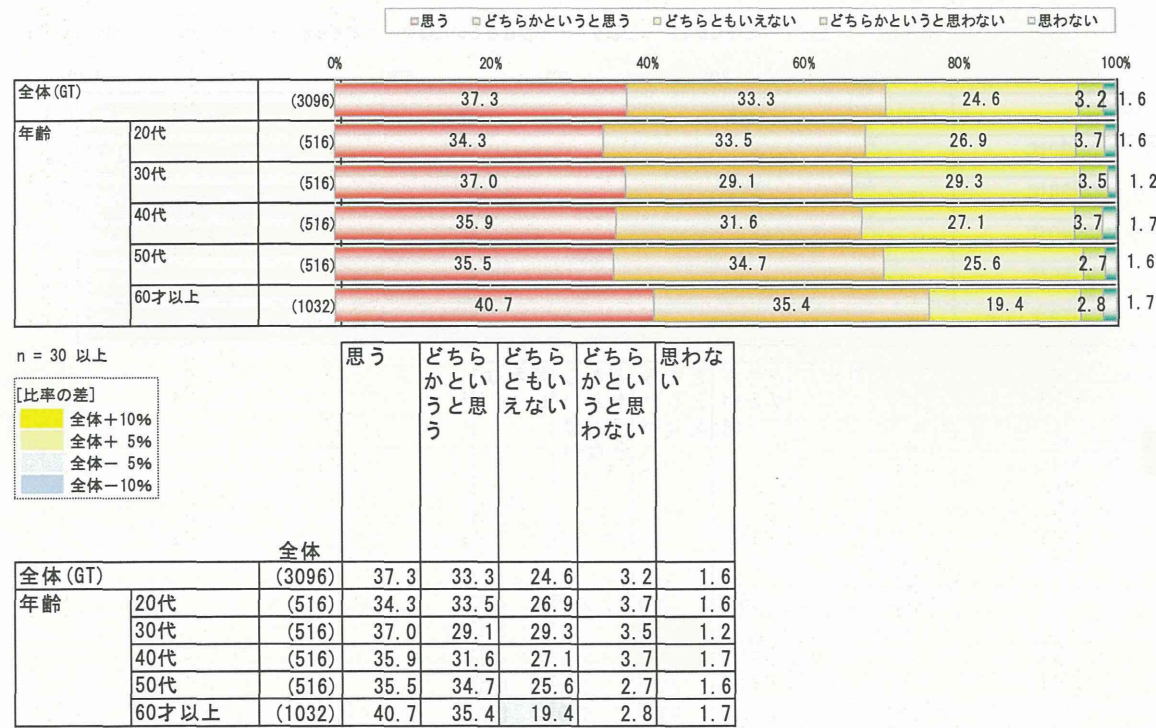
図表 27 漢方の原料（生薬）の輸入状況の理解



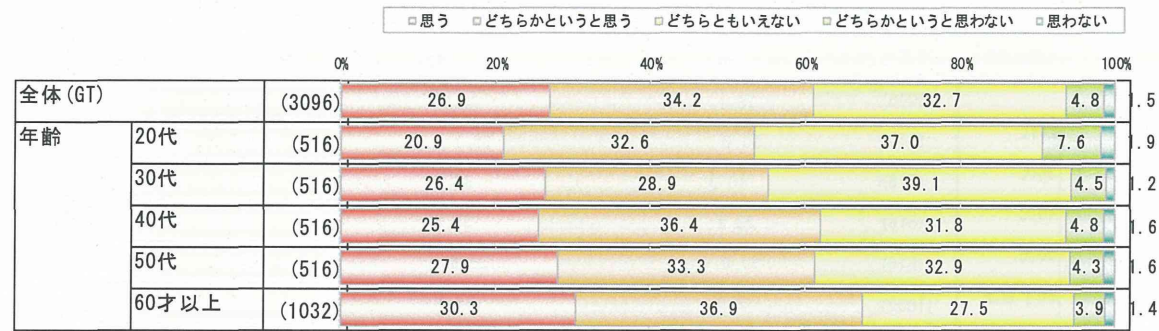
図表 28 国産生薬の特徴 【価格が高い】



図表 29 国産生薬の特徴 【安全性が高い】



図表 30 国産生薬の特徴 【品質のばらつきが少ない】



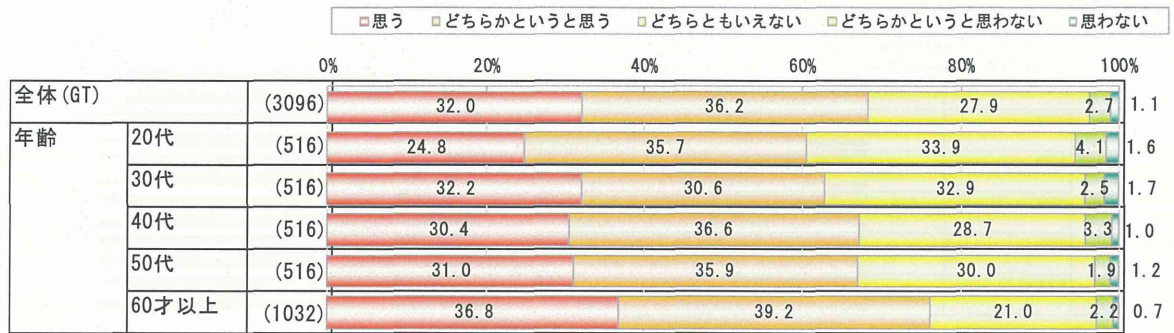
n = 30 以上

[比率の差]

- 全体+10%
- 全体+ 5%
- 全体- 5%
- 全体-10%

年齢	全体 (GT)	思う	どちらかというと思	どちらともいえない	どちらかというと思わない	思わない
20代	(516)	26.9	34.2	32.7	4.8	1.5
30代	(516)	20.9	32.6	37.0	7.6	1.9
40代	(516)	26.4	28.9	39.1	4.5	1.2
50代	(516)	25.4	36.4	31.8	4.8	1.6
60才以上	(1032)	27.9	33.3	32.9	4.3	1.6
全体 (GT)	(3096)	30.3	36.9	27.5	3.9	1.4

図表 31 国産生薬の特徴 【生産（栽培）量が少ない】



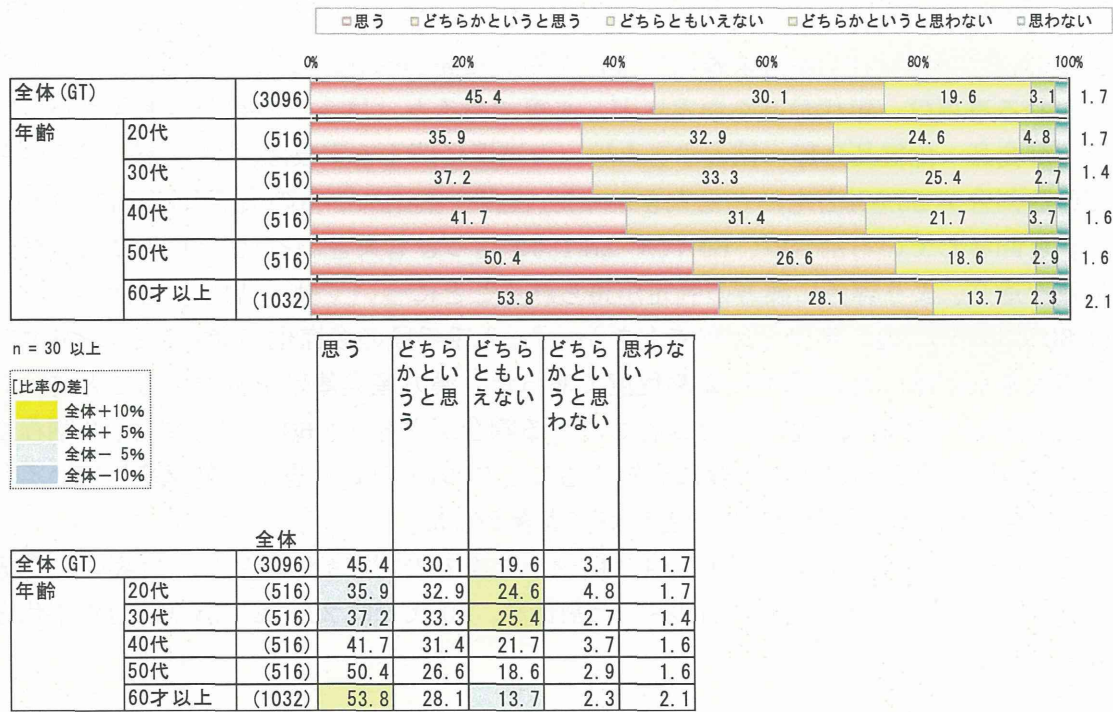
n = 30 以上

[比率の差]

- 全体+10%
- 全体+ 5%
- 全体- 5%
- 全体-10%

年齢	全体 (GT)	思う	どちらかというと思	どちらともいえない	どちらかというと思わない	思わない
20代	(516)	32.0	36.2	27.9	2.7	1.1
30代	(516)	24.8	35.7	33.9	4.1	1.6
40代	(516)	32.2	30.6	32.9	2.5	1.7
50代	(516)	30.4	36.6	28.7	3.3	1.0
60才以上	(1032)	31.0	35.9	30.0	1.9	1.2
全体 (GT)	(3096)	36.8	39.2	21.0	2.2	0.7

図表 32 国産生薬の増産への意向

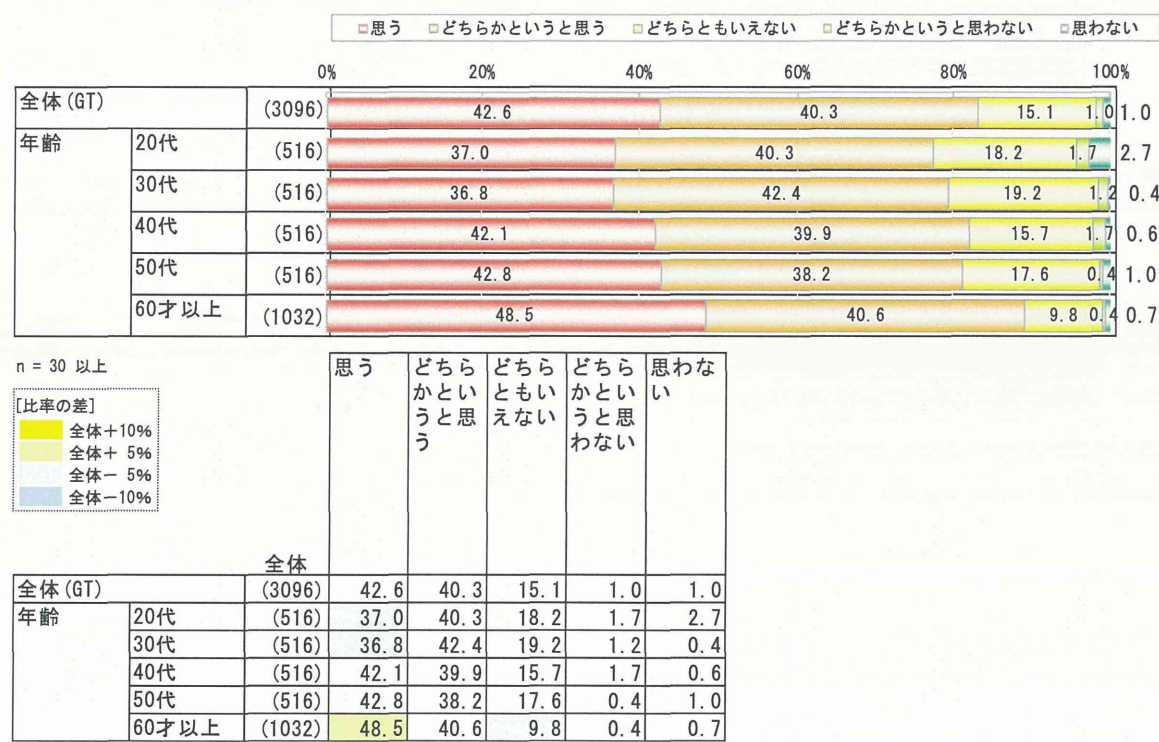


3) 漢方の普及について

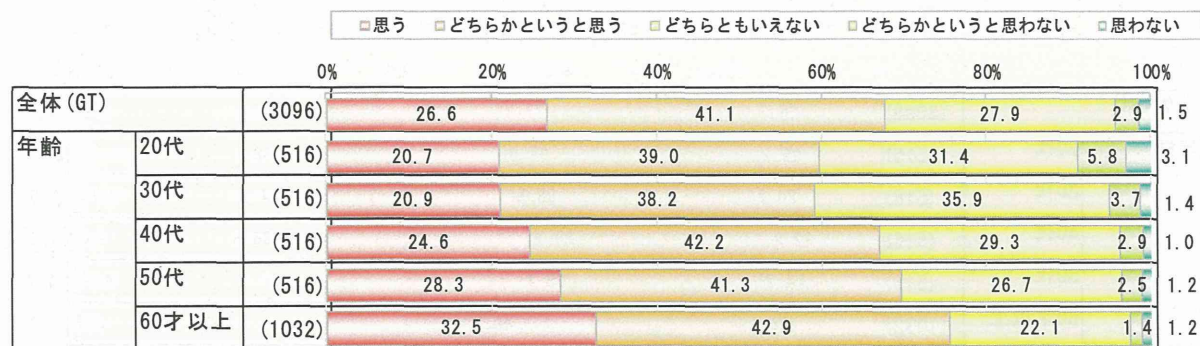
漢方のより一層の普及にむけての取り組みについて、各取り組み事項を年代別でみると、国内農業における生薬栽培基盤の整備や IT を用いた先進的栽培技術を導入することなど農業にかかわる事項は、年代が高くなるほど、必要であると「思う」の割合が大きかった。また、漢方が食品・化粧品分野へ拡大するといった消費に関する事項は、20 代が「思う」と回答している割合が 23.6%と最も大きかった。医師や薬剤師からの積極な進めについては、「思う」と回答している割合は、60 代が 28.1%と最も大きかった。IT 等による漢方診断の普及を通じ、より容易に漢方の判定が得られることについては、「思う」と回答している割合は 60 才以上が、他の年代と比べて大きかった。入手手段の多様化が進むことについては、年代での大きな差はなくいずれも 2 割程度であった。漢方産業基盤を整備することについては、年代が高くなるほど、「思う」と回答している割合が大きく、60 代以上では、3 割程度であった。漢方関連学会等が広く一般に周知することについては、「思う」と回答している割合が 60 才以上では、31.8%と他の年代と比べて大きかった。

検査や診断技術の向上によってより自分に適した漢方の判定が可能になった場合の意思については、服用したいと「思う」と回答した割合が、20 代では 29.7%であり、他の年代と比べて大きかった。

図表 33 漢方の普及に向けての対応について【国内農業における生薬栽培基盤を整備すること】



図表 34 漢方の普及に向けての対応について【IT を用いた先進的栽培技術を導入すること】

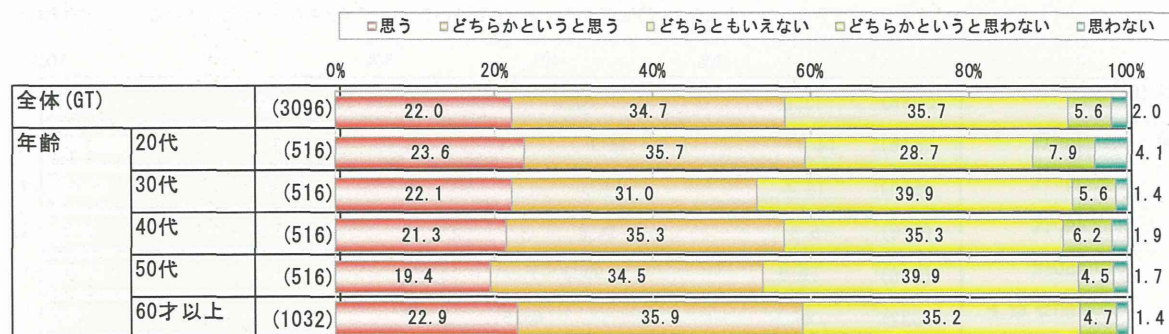


n = 30 以上

[比率の差]	
全体+10%	
全体+ 5%	
全体- 5%	
全体-10%	

		全体					
全体 (GT)		(3096)	26.6	41.1	27.9	2.9	1.5
年齢	20代	(516)	20.7	39.0	31.4	5.8	3.1
	30代	(516)	20.9	38.2	35.9	3.7	1.4
	40代	(516)	24.6	42.2	29.3	2.9	1.0
	50代	(516)	28.3	41.3	26.7	2.5	1.2
	60才以上	(1032)	32.5	42.9	22.1	1.4	1.2

図表 35 漢方の普及に向けての対応について【漢方が食品・化粧品分野へ拡大すること】

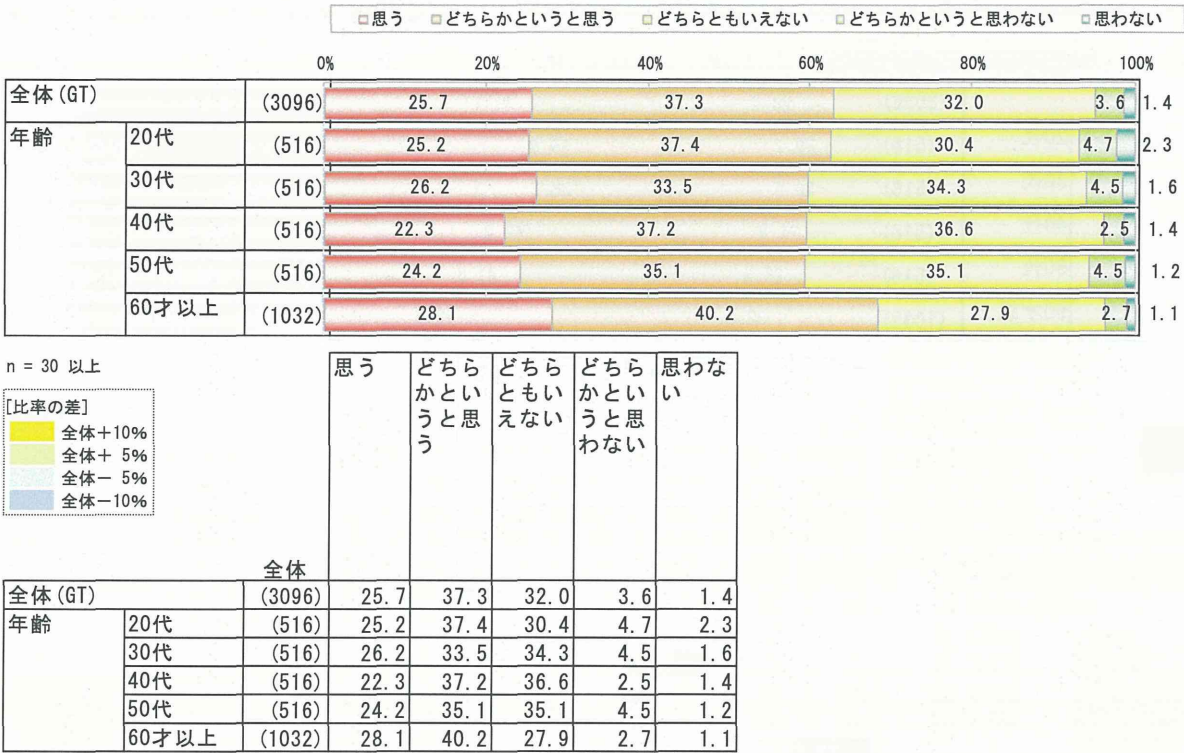


n = 30 以上

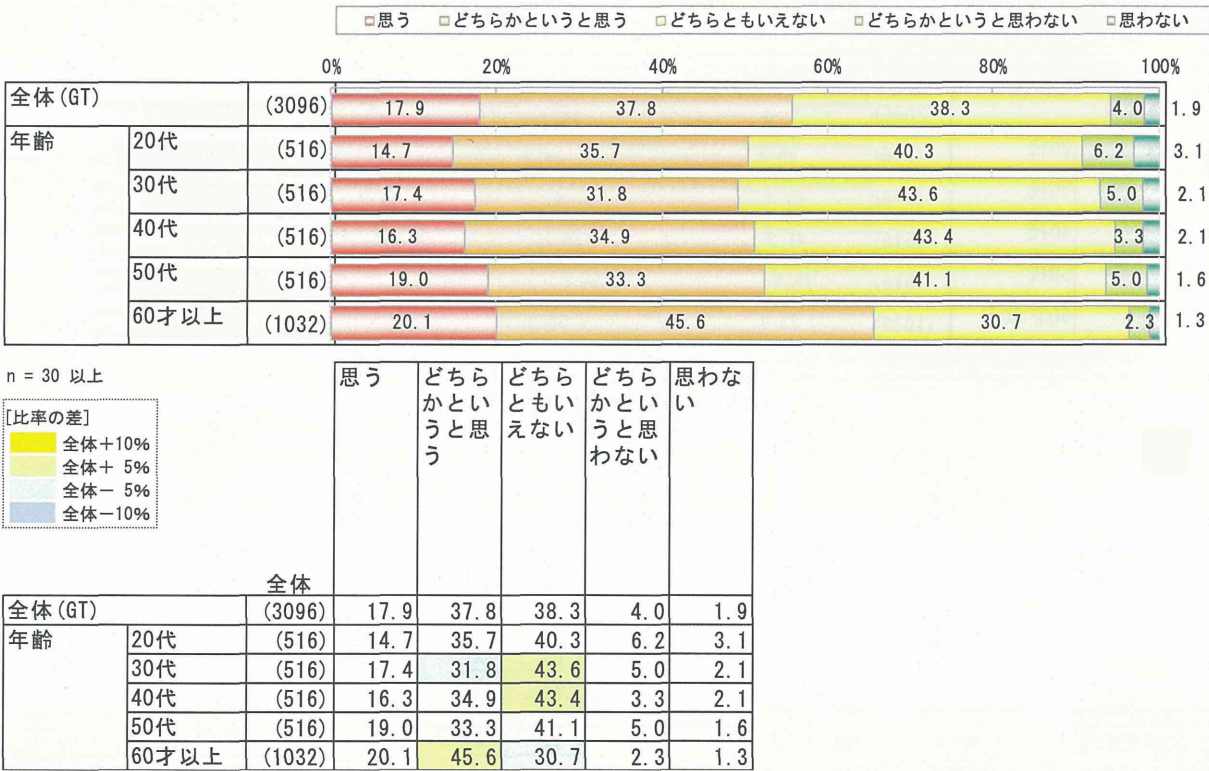
[比率の差]	
全体+10%	
全体+ 5%	
全体- 5%	
全体-10%	

		全体					
全体 (GT)		(3096)	22.0	34.7	35.7	5.6	2.0
年齢	20代	(516)	23.6	35.7	28.7	7.9	4.1
	30代	(516)	22.1	31.0	39.9	5.6	1.4
	40代	(516)	21.3	35.3	35.3	6.2	1.9
	50代	(516)	19.4	34.5	39.9	4.5	1.7
	60才以上	(1032)	22.9	35.9	35.2	4.7	1.4

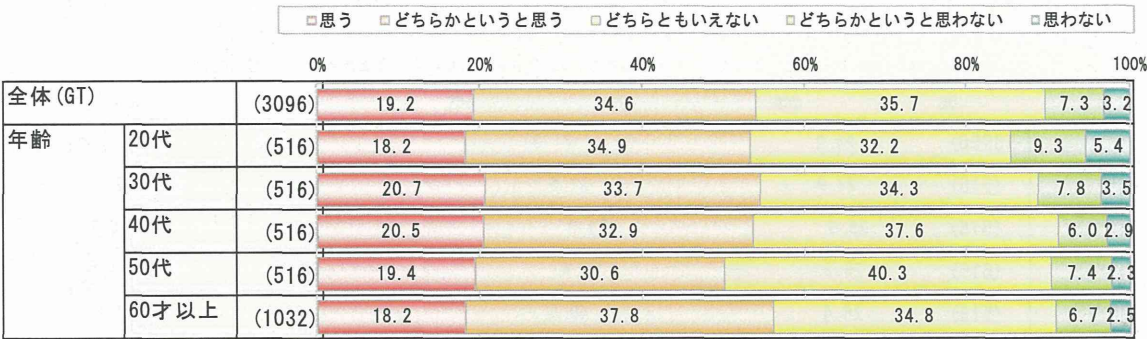
図表 36 漢方の普及に向けての対応について【医師や薬剤師が積極的に漢方を進めること】



図表 37 漢方の普及に向けての対応について【IT 等による漢方診断の普及を通じ、より容易に漢方の判定が得られること】



図表 38 漢方の普及に向けての対応について【入手手段の多様化が進むこと】

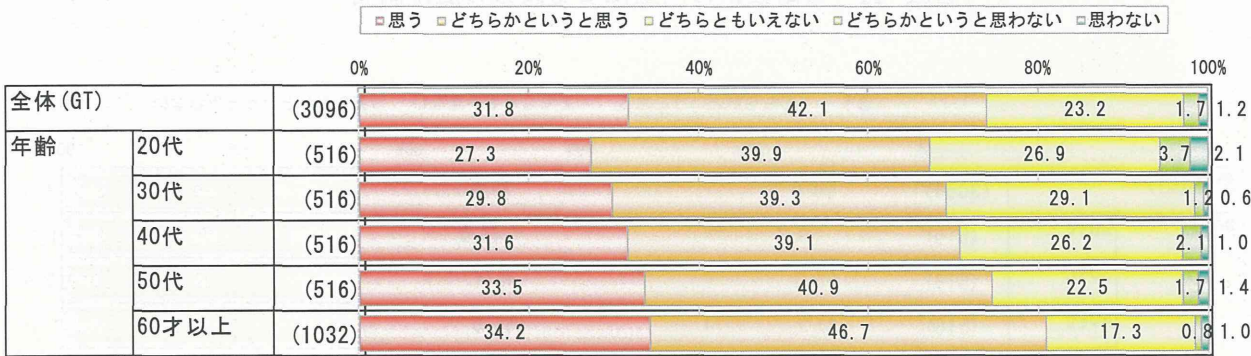


n = 30 以上



全体							
全体 (GT)		(3096)	19. 2	34. 6	35. 7	7. 3	3. 2
年齢	20代	(516)	18. 2	34. 9	32. 2	9. 3	5. 4
	30代	(516)	20. 7	33. 7	34. 3	7. 8	3. 5
	40代	(516)	20. 5	32. 9	37. 6	6. 0	2. 9
	50代	(516)	19. 4	30. 6	40. 3	7. 4	2. 3
	60才以上	(1032)	18. 2	37. 8	34. 8	6. 7	2. 5

図表 39 漢方の普及に向けての対応について【漢方産業基盤を整備すること】

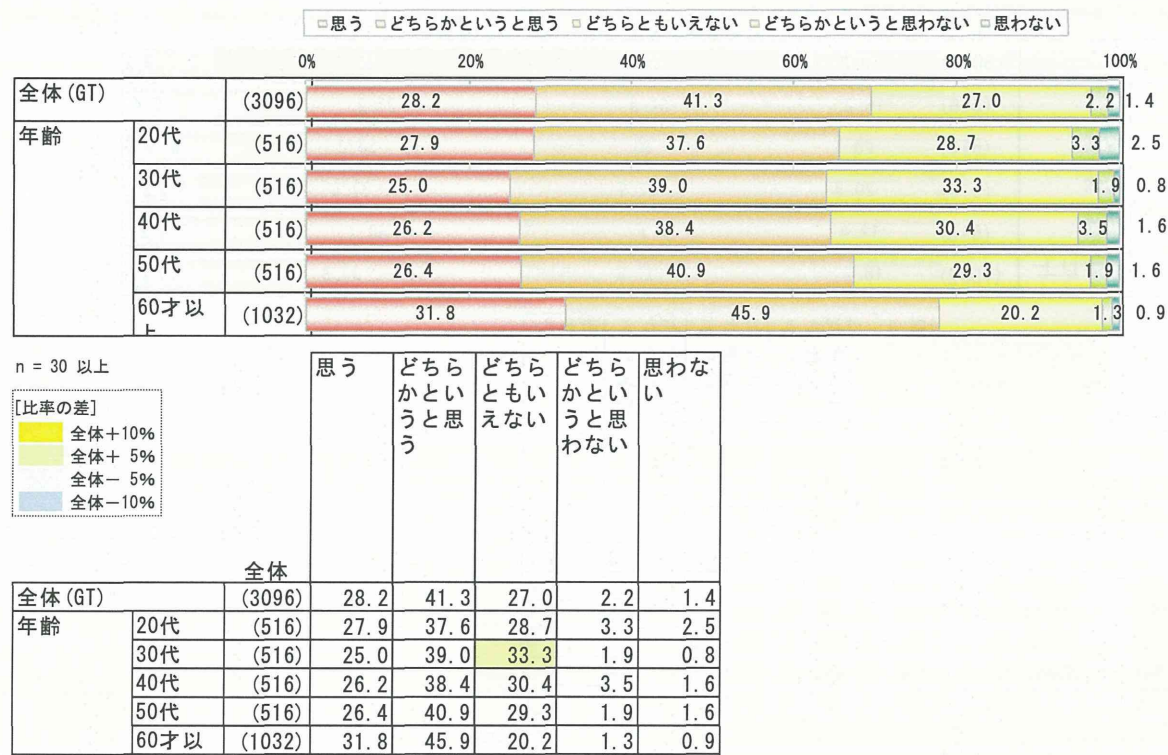


n = 30 以上



		全体					
全体 (GT)		(3096)	31.8	42.1	23.2	1.7	1.2
年 齢	20代	(516)	27.3	39.9	26.9	3.7	2.1
	30代	(516)	29.8	39.3	29.1	1.2	0.6
	40代	(516)	31.6	39.1	26.2	2.1	1.0
	50代	(516)	33.5	40.9	22.5	1.7	1.4
	60才以上	(1032)	34.2	46.7	17.3	0.8	1.0

図表 40 漢方の普及に向けての対応について【漢方関連学会等が広く一般に周知すること】



図表 41 診断技術の向上による漢方の服用意向

